

## ヒトパピローマウイルス感染と子宮頸癌シルガード 9

子宮頸癌の95%以上はヒトパピローマウイルスが原因であることが分かっています。

今まで日本では2価(16, 18型)または4価(6, 11, 16, 18型)のワクチンが使用されてきました。

子宮頸がんの60%ほどの原因となっているヒトパピローマウイルス16型、18型の感染予防はできていました。

その2つ以外の型の感染予防はできないため、9つの型のヒトパピローマウイルスをターゲットにした

9価ワクチン(シルガード9)が開発され、WHOでもその安全性と有効性が認められ、80以上の国と地域ですでに承認されています。

9価ワクチンを使用することにより90%程度の子宮頸癌予防効果が期待されています。

(日本では2021年2月24日より発売開始となりました。)

## ワクチン接種後副反応について

接種後副反応疑いとして報告された多様な症状は機能的な身体症状であるという見解であり、これまでにヒトパピローマウイルス接種後に生じた多様な症状とワクチンとの因果関係を示唆する新しい質の高いエビデンスは報告されておられません。

ヒトパピローマウイルスワクチン接種後の局所の疼痛や不安などが機能的な身体症状を引き起こすきっかけになった可能性が考えられています。



医療法人 豊生会

シリウス外科・内科クリニック

SIRIUS Surgery & Internal Medicine Clinic